特集

北郷地域の納涼祭

8月も終わり。60発の打ち上げ花火が旧北郷小学校校舎周辺の山中に大きな音を響かせました。

その音は「山びこ」となり、1発上がると、2発にも3発にも聞こえ、イノシシをも恐れさせるほどのものだったといいます。

「どんどん寂れていくこの地域を、もうずっと前からなんとかせんといかんと、みんなが思っていました。」と言う大屋式区長の堀孝さん。

そこで思いついたのが、夏を締めくくる納涼祭の復活と北郷地域では初めての打ち上げ花火でした。

みんなの思いが形になった

地域が衰退していくのを黙って見ていられない。地域のお年寄りのみんなに、遠出せずに花火を見せてあげたい。

そんな地域の強い思いから、納涼祭の計画は次々と形になっていきました。

忘れかけていた踊りを思い出すために、各地域で行われる盆踊り大会にどんどん参加し、北郷の納涼祭のチラシを配ったり、踊り子の人に誘いの声を掛け回ったりしたそうです。

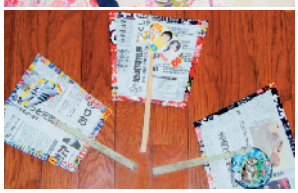
「なんせ資金がないろ。それでもなんとかして盛り上げないかんけん、色々と考えて。見て、こんなもん作った！」と手作りのウチワを見せてくれた実行委員の寺岡さん。

「百均で見つけてね。これやったら自分らでも作れると思って、竹は周りになんぼでもあるし、紙の部分は新聞じゃぁ面白くないけん、折込チラシとか雑誌のページを使って」と話すのは同じく実行委員の益岡さんです。

盆踊りの練習の最中に「ハッピが欲しいね」と一声出ると、各々の家庭で着なくなった着物生地を持ち寄り、地元の89歳の最長老である益岡静子さんに手ほどきを受け、3人で11人分を2日で仕上げたそうです。

納涼祭までの短い準備期間の中、こうして実行委員のメンバーを中心に準備が整っていきました。

そして、北郷地域での納涼祭開催はチラシの配布と口コミで広がり、当日会場は町内外から100人を越える人が集まりました。稲刈りの終わった田んぼから打ち上げられた花火は、辺り一帯を山で囲まれた中で、大きく何度も響き渡り、参加者の心に強く残ったことと思います。



みんなのおかげで祭りが成功した

とにかく、実行委員会の中では、資金の面で本当に心配がされた納涼祭だったそうです。

しかし、振り返ってみると、たくさんの人々の協力のもと盛大に行うことができました。

「地元からは出店の材料に、野菜やお米など寄付がありました。町内で活動している方がボランティアで祭りを一層楽しませてくれましたし、町外から来た出店の方は、祭りの盛り上がりを見て、売上金を寄付してくれた。もう本当に、納涼祭が大成功に終わったのはみんなのおかげです！」と言って、実行委員堀さんも納涼祭を振り返ります。

最後に、区長の堀さんからは、「初の試みでやってみた納涼祭は、参加者も多かったし、たくさんの人から良かったと好評をもらいました。よく盛大にできたと思う。来年からも続けていけたらと思っています。」という話をいただけました。

黒潮町の夏の楽しみなイベントがもうひとつ増えそうな予感です。

北郷地域の「お助け隊」を紹介します！

婦人会や青年団がない北郷地域では、地域で敬老会や運動会などの行事を行うときに中心となって活動するグループとして、大屋式・甲才・本谷・大井川から合計約40人を集め「お助け隊」を結成しています。

今回の納涼祭の実行委員会は、その「お助け隊」のメンバーが中心となって運営を行なっていました。みなさんとても明るくて楽しい元気な方ばかりでした。